

「高崎健康福祉大学 高校生論文コンテスト 2021」講評

高校生を対象とした本論文コンテストでは、「私たちの時代の食料・環境・資源マネジメントを探る」というテーマで論文を募集しましたが、おかげさまで全国から213件の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

この213件の応募論文を本論文コンテスト審査委員会において厳正かつ公平に審査した結果、学長賞1件、優秀賞2件、学校賞3件が選考され、本年10月4日（月）に審査結果を本学ホームページで公表しました。

◆学長賞◆

齊藤 衣純（神奈川県立横浜翠嵐高等学校3年）

「世界人口100億人のタンパク質を確保する方法についての考察」

◆優秀賞◆（五十音順）

柳澤 明日美（群馬県立中央中等教育学校5年）

「米の消毒液を世界へーコロナ禍における加工品の提案一」

渡邊 朝香（高崎健康福祉大学高崎高等学校1年）

「ゲームで学ぶ環境問題」

◆学校賞◆（五十音順）

群馬県立勢多農林高等学校

群馬県立中央中等教育学校

高崎健康福祉大学高崎高等学校

受賞されたみなさん、おめでとうございます。以下に、受賞論文の概要と、審査過程で高評価となったポイントについて説明します。

学長賞を受賞した齊藤衣純さんの論文「世界人口100億人のタンパク質を確保する方法についての考察」は、今後の世界人口の増加予測をふまえて、100億人の人々が生きていくために必要なたんぱく質を調達する方策を提案した内容である。資源制約や栄養学的観点にも言及しながら、代替的な食材を比較検討した結果、必要量の半分を大豆から、残りの半分を昆虫から摂取することが望ましいことを、具体的かつ明快に提言している。

優秀賞を受賞した柳澤明日美さんの論文「米の消毒液を世界へーコロナ禍における加工品の提案ー」は、コメを原料とする消毒用アルコール製品の製造を検討した内容である。コメ由来の消毒用アルコールを製造することで、生産過剰の緩和と感染症対策の充実という2つの社会的課題を同時に改善するための方法を提案している。すでに商品化されているコメ原料アルコール製剤を実際を使用して、一般的な消毒用アルコール製剤に対する機能性や経済性を比較検討することで、提案内容の実現可能性についても言及している。

同じく優秀賞を受賞した渡邊朝香さんの論文「ゲームで学ぶ環境問題」は、私たちが環境問題を効率的に理解するための方策について検討した内容である。環境が抱えるさまざまな問題を主体的に捉えるためには、ゲームによる学習が効果的であり、遊びを取り入れた身近な素材から楽しく環境教育を実践すべきであると提案している。その上で、既存のゲームに環境教育の素材を盛り込むとどのような展開が想定されるか、模擬的かつ具体的な例示が試みられている。

また、学校賞3件は、いずれも10件以上の応募を頂戴した学校が受賞の対象になっています。たくさんのご応募を頂戴し、ありがとうございました。

なお、学長賞と優秀賞の3件に加えて、次の14件が最終選考に進みました。該当論文のタイトルを掲載することで、健闘を称えたいと思います。

「善き番人」

「自然環境を保護するために」

「正常性バイアスを見つめて」

「「エコ町づくりなおし、エコ町おこしなおし」の提案」

「大気エアロゾルにおける農業への影響」

「隠れ食品ロスの削減を目指して

～効果的な情報発信による生産場面からの改善策～」

「第一次産業の問題と解決策」

「伊勢崎市の伝統資源、下植木ネギを生かす」

「合成着色料は植物の育成に影響を与えるか」

「農業で解く日本の課題」

「飲食店からの食品ロスを減らすための高校の活用」

「衣服の大量廃棄を防ぐ」

「バイオプラスチックの可能性の検証」

「私の実践する食農教育活動の展開」